

自然がいつぱい？幼稚園

附属幼稚園・園長 前田 喜四雄

■生き物の飼育

園児たちは驚くほど元気で、園庭で飛び回っています。幼稚園で園児に混じって一緒に活動し、遊びに付き合っていると、その中からこれまでに気がつかなかったいろいろなアイデアが浮かびます。

園児たちは、カナヘビやヤモリを捕まえてきてたくさん飼っています。「餌をあげたい。何をやってほしいの?」「虫なら何でも食べるよ。」「これをやっていい?」小さなバッタやキリギリスの子どもを捕まえています。飼育箱にそれらをいれます。カナヘビたちはそれらの生きている小さな虫たちをパクッと捕らえてアツという間に食べます。その様子を見て、園児たちは喜び安心してきます。

子どもたちに人気のあるオタマジャクシの飼育は容易です。ホウレンソウをやわらかくして与えたり、にぼしのような肉片を少しあげれば大きくなります。しかし、手や足が出、尾がだんだんに無くなって、親であるカエルになると、飼育は非常に困難です。カエルは生きている昆虫類を捕らえて食べる

からです。カエルも大きくなると、口に入る虫たちもそれなりの大型でもかまいませんが、小さな子ガエルだと小さな虫を与えなければなりません。これがかかなか手にはいらないのです。専門家はそのため、アブラムシやシヨウジョウバエを飼育して、餌にしています。しかし、子どもたちでは、そこまで準備できません。したがって、カエルは周囲に草などが生えている池に放しましょう。自然にまかせましようということになります。

しかし、園児たちが捕まえてきた小さなバッタなどの幼虫を見て、次のようなことを思いつきました。このような小さな虫を子どもたちが捕まえられない時期はいつなのだろうか?この小さな虫がいる時期ならば、子ガエルやカナヘビ、ヤモリの飼育は簡単だろうか。そうか、そのような時期を特定できれば、簡単に飼育ができるのだ!

ということで、幼稚園庭で生き物調べを思いつきました。ここまでくれば、他園からも羨ましがられるような森が園内にあり、自然が豊かで、その中でのびのびと保育できるといふ特徴をもつ、

■セミの抜け殻調べ

附属幼稚園内の自然の実態を明らかにしよう。森が園内にあり、自然が豊かである。本当に?実は具体的な資料はまったくないと聞いてもいいくらいです。

この活動の名称を「附属幼稚園生き物しらべ大作戦」としよう。というところで、全体案、および一部のついでには調査の各論の詳細について、検討中であり、その中でも「園内におけるセミの抜け殻調べ」については、すでに調査の試みを始めています。園児をどれだけ巻き込んで、このような調査ができるか?このような調査に子どもたちを巻き込むにはどのようなしたらいいか?危惧は無用でした。子どもたちは遊びの中でセミの抜け殻探しをやっています。たぐさんの抜け殻が見つかりました。後で私が森の中で抜け殻探しを行いました。一つも見つかりませんでした。やはり子どもたちはすごいです。この熱心さや好奇心が小学校、中学校、高校、大学、社会人といつまでも続くことを祈りたいものです。



幼稚園西側にある森